

■古賀市の公共交通の課題見直し（案）

資料1

第2回協議会 「課題」提案事項		第2回協議会 意見	委員会意見を踏まえた変更案	
項目	内容		項目	内容
課題①：利便性と持続可能性が両立した市内の公共交通体系のリ・デザイン	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナによる交通事業の衰退や2024問題による運転手不足といったサービス供給側の問題を克服し、カーボンニュートラルへの貢献やウォークアブルシティ構想の推進に定める利便性を確保していくために、デジタル技術を活用して、利便性と持続可能性を両立する公共交通体系への再構築（リ・デザイン）を進めていく必要がある。 ・特に、高齢人口がさらに増加している中、そして高齢者の自家用車分担率も依然として高い状況において、高齢者が自家用車でなくても移動できる環境の構築が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・バス・タクシーの乗務員確保についても記載した方がよい（大井委員） ・乗務員確保の施策については、交通事業者へヒアリングを行い、取り組める施策を書き込んでほしい（傳委員代理） 	課題①：市内の公共交通体系の利便性と持続可能性の両立が困難	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症の流行がもたらした行動自粛等による交通事業の衰退や、2024問題による運転手不足といったサービス供給側の問題を克服し、利便性を確保していくために、デジタル技術をはじめとした新たな技術を活用して、利便性と持続可能性を両立する公共交通体系への再構築（リ・デザイン）を進めていく必要がある。 ・特に、高齢者人口がさらに増加している中、高齢者の自家用車依存率も依然として高い状況において、高齢者が自家用車でなくても移動できる環境の構築が必要である。
課題②：古賀駅周辺や活性化拠点における公共交通サービスの充実	<ul style="list-style-type: none"> ・古賀駅周辺地区、古賀駅東口周辺地区におけるまちづくり“歩きたくなる 暮らしたくなる 居心地の良いまちづくり”を進めていくために移動利便性の高い交通環境を確保していく必要がある。 ・コンパクト プラス ネットワークの都市構造を構築していくべく、青柳や米多比の活性化拠点を核とした市東部エリアの交通ネットワークを構築していく必要がある。 		課題②：まちづくりに対し、公共交通サービスの視点が必要	<ul style="list-style-type: none"> ・古賀駅周辺地区におけるウォークアブルなまちづくり“歩きたくなる 暮らしたくなる 居心地の良いまちづくり”を進めていくために移動利便性の高い交通環境を確保していく必要がある。 ・コンパクト プラス ネットワークの都市構造を構築するために、市東部エリアにおいては、青柳や米多比の集落拠点を核とした交通ネットワークを構築していく必要がある。
課題③：公共交通サービス情報・利用環境の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・公共交通の関心喚起、利用促進を推進していくべく、公共交通の運行情報の提供や利用啓発、一元的な検索ツールの提供、乗車体験会や乗り方教室などの周知、駅や主要バス停での乗り継ぎ環境の維持、施設や車両のバリアフリー化など、情報や利用環境の充実を図っていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・市民に対する関心喚起、利用促進は、課題5に入れた方がよい（大井委員） 		
課題④：環境にやさしい交通行動や車両導入の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・環境負荷を抑えた交通体系を構築していくために、市民の自家用車分担率の高い交通行動からの転換や、環境にやさしい交通サービスの充実、各交通機関の環境負荷の低い車両への転換などを推進していく必要がある。 		課題③：環境にやさしい交通体系や交通行動への転換が必要	<ul style="list-style-type: none"> ・環境負荷を抑えた交通体系を構築していくために、環境にやさしい交通サービスの導入や、環境負荷の低い車両への転換を推進していく必要がある。さらに、市民の自家用車依存率の高い交通行動からの転換も促進する必要がある。
課題⑤：維持確保に向けた市民の参画の展開	<ul style="list-style-type: none"> ・各地域の交通サービスの改善、そして古賀駅周辺の交通サービスのデザインを進めていくにあたり、公共交通における市民の意見等も収集・反映し、行政・市民・交通事業者等の関係者が協働して公共交通を創り上げていくスキームを構築する必要がある。 		課題④：公共交通に対する市民の認識と理解が一層必要	<ul style="list-style-type: none"> ・各地域の交通サービスの改善、そして古賀駅周辺の交通体系の再構築を進めていくにあたり、公共交通における市民の意見等も収集・反映し、行政・市民・交通事業者等の関係者が協働して公共交通を創り上げていくスキームを構築する必要がある。 ・また、公共交通の維持確保に向け、市民の公共交通の関心喚起、利用促進を推進していくべく、公共交通の運行情報の提供や利用啓発、一元的な検索ツールの提供、乗車体験会や乗り方教室などの周知を図っていく必要がある。
課題⑥：他分野や隣接市町との共創の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・公共交通の利用促進、公共交通サービスの充実にあたっては、福祉や環境、教育、商工など各分野と連携した取り組みや、地域との協働、隣接市町と連携した広域交通サービスの確保などを進め、持続的で利便性を確保した地域公共交通を共創していく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・観光・福祉・教育に携わっている人から交通に関する要望を拾い上げて、施策を検討してほしい（傳委員代理） 	課題⑤：他分野や隣接市町との共創が必要	<ul style="list-style-type: none"> ・公共交通の利用促進、公共交通サービスの充実にあたっては、福祉や環境、教育、商工など各分野と連携した取り組みや、隣接市町と連携した広域交通サービスの確保などを進め、持続的で利便性を確保した地域公共交通を共創していく必要がある。
		<ul style="list-style-type: none"> ・項目の書き方が課題となっていない（大井委員） 		